

刈田町立図書館 新着推し本紹介のコーナー

7月の推し本



『「かわいい」のちから』

入戸野宏 // 著 化学同人 請求記号 140.7/ニ/ 資料番号 610114142

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599541>

【紹介文】日常的に多用されている「かわいい」という言葉。人によって「かわいい」と感じるものには違いがある。ふわっとした感覚のようなそれを実験心理学という分野で科学的に論じているのが本書である。実験心理学とは、人間の心の仕組みや法則を実験によって明らかにすること。著者は、10年以上にわたってこのテーマを研究し、様々なデータから「かわいい」のちからを探っている。普段自分が何気なく使っている「かわいい」をこんなにも真面目に丁寧に解き明かしている本書に驚いた。心理学を専門的に学んでいなくても、なるほどなぁと面白く読める一冊。

『まじないの文化史』

新潟県立歴史博物館 // 監修 河出書房新社 請求記号 147.1/マ/ 資料番号 610114654

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599686>

【紹介文】今年には新型コロナの影響もあり、得体の知れなかった「アマビエ」なる妖怪が、疫病退散の守り神のようにあがめられ、多くの絵師たちによって復活の日をみましたね。そもそも「アマビエ」とは海中にすむ妖怪で、その昔、災いが続いた時に「私の姿を描き写した絵を人々に早々に見せよ。」と予言めいたことを言ったというのが始まりらしいです。

札や紙に書かれた文字や絵、そこに記されているものとは具体的には何なののでしょうか？その謎を解くカギが、ここにあるかもしれません！

『怖くて眠れなくなる地学』

左巻 健男 // 編著 PHP研究所 請求記号 450.4/サ/ 資料番号 610115123

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599794>

【紹介文】本書では地学の分野から、主に地震・火山活動・台風・集中豪雨などの自然災害について書かれています。日本では21世紀に入ってからだけでマグニチュード7以上の地震が12回。震度1以上の地震が1年間に2000回以上おきているそうです。また日本の陸地面積は世界の2.8%、ですが世界の火山の7分の1が日本にあるそうです。どちらもすごい数字です。本の中では過去に起きた自然災害を例にだし、どういったことがおきたのかを説明しています。今は梅雨の時期。北部九州を襲った集中豪雨についても書かれています。改めて防災グッズや避難所の確認など、災害への対策を考えてはどうでしょうか。

『医者が教えるサウナの教科書』

加藤 容崇 // 著 ダイヤモンド社 請求記号 498.3/カ/ 資料番号 610114910

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599757>

【紹介文】「サウナ」って、どんな場所でどんなイメージですか？

「なんでわざわざ暑い部屋に入って汗を流してるの？」「なんで水風呂に入るの？」「湯船に入るだけで充分なんじゃない？」そんな疑問を医学的な観点から解消してくれる一冊。サウナの効果のひとつとして「脳の疲労が取れて頭がスッキリする」。心身を整えることで、仕事のパフォーマンスがあがると述べています。正しい入り方を教えてくれるので、なんとなく見よう見まねで入った人にも、これからサウナーデビューをしようと思っている人にもおすすめです。

『14歳からの読解力教室』

犬塚 美輪 // 著 笠間書院 請求記号 817.5 /イ/ 資料番号 610111221

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00598992>

【紹介文】『読解力ってなあに?』、『どんな時に役立つの?』と聞かれたら答えられるだろうか…。この本は、著者である犬塚先生と三人の教え子（小説が大好きで説明文は苦手なアヤ、図鑑や新書は割と好きで動物大好きなマコ、数学が得意で本を読むのは大嫌いなヨシキ）の対話形式で展開。「読むとは」、「暗記と理解の違い」、「マンガはだめなのか」等のテーマに関する三人の意見や疑問を否定することなく、知識や過去の研究例を基にみんなで考えながら結論を導き出す。時代にマッチした、「動画やAI（人工知能）があれば本は不要」という意見に犬塚先生はどう答えるのか。読解力を向上させる方法にも言及し、読みやすく興味深い内容。中高生にも大人にも、ぜひ読んでほしい。

『いやよいよよも旅のうち』

北大路 公子 // 著 集英社 請求記号 915.6 /キ/ 資料番号 610112567

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599050>

【紹介文】県をまたぐ移動の自粛が解除された今、活動的に行動したくなかったのではないだろうか。この本は作者が担当編集者に「嫌々」ながら連れ出されて、あちこちと回った話である。訪ねた「1道5県」では動物園、遊園地など日常普通に過ごす場所に出かけている。そこでは、「いやだな」と思いながらも「チャレンジ精神」で新しい発見を見つけ、旅を謳歌している。「旅の恥は掻き捨て」でも「旅は情け人は心」という出会いがあっというものである。旅先では、ぜひ何かにチャレンジを！イラスト付き。

『わたしたちのカメムシずかん』（児童書・こんちゅう）

鈴木 海花 // 文 はた こうしろう // 絵 福音館書店 請求記号 486 /ス/ 資料番号 620042077

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599648>

【紹介文】サブタイトルは、「やっかいものが宝ものになった話」カメムシは、とてもくさいにおいを出すので見るだけでもとても嫌な虫である。どこにでるかかわからないのも困る。あまりのクサさに自分のにおいで死んでしまうものもあるのだとか・・・岩手県にある葛巻町という小学校では、この嫌われ者を宝ものに変えてしまったとはどういうことなのだろう。全校生徒29人でカメムシをいろいろ調べてみる。どんな種類がいて、どんな性質なのか。わかっていくうちに、カメムシに対する見方がかわってくる。カメムシと上手に付き合うコツは、「やさしく、そっと」だそうである。

『クローバーと魔法動物 1』（児童書・ものがたり）

ケイリー ジョージ // 作 童心社 請求記号 933 /ジ/ 資料番号 620041814

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00599497>

【紹介文】運がいい、運がわるい。よく使ってしまう言葉かもしれない。主人公の女の子もツイていないことがあると運のせいにして、自分は本当に運がわるい女の子だと決めこんでいた。けれど、その運の悪さから魔法動物（ユニコーンだとかドラゴンだとか）の紹介所のボランティアをすることになるというのは運が悪いことだろうか。自分の考え次第で運の良し悪しは変わるのかもしれない。シリーズ一作目、これからの展開が楽しみな一冊。



問い合わせ先

苅田町立図書館 ☎093-436-0946

開館時間：9：30～17：30（木・金は19：00まで。本館のみ）

ホームページから蔵書検索もできます



(2020.7.5発行)